

2023春季生活闘争方針など全会一致で承認 国有林野事業の推進、組織運営・強化取組など意思統一 ～林野労組第19回中央委員会～



議長選出されあいさつする前川委員（左）

冒頭、中村中央執行委員長は、「①政治情勢については、ロシア・プーチン政権によるウクライナによる軍事侵攻は今なお停戦の糸口が見えず1年が経ち、世界的なエネルギー問題、物価高など世界流通の混乱が生じている。国民が日々の生活に困窮する中で、富裕層ばかりを優遇する税制改正や兵器を持つことを目的とした増税政策は到底容認できるものではない。」
②国有林野事業の推進について

は、様々な職場環境における課題、労働条件の改善を一体的なものとして取組を進めてきた。職場段階で喫緊の課題として、要員不足、空席ポスト問題、昇任昇格問題など本部オルグの中でも様々な課題が報告されている。これまでも交渉を進めてきているが、そうはなっていない職場の実態の改善に向けて、改めて取組を強化しなければならない。この春闘段階においても取組強化を図ってきたいので、職場段階において交渉の取組もお願いしたい。

③組織運営・組織強化については、コロナ禍になり3年が経ち、コロナの状況は注視しなければならないが、改めて、日々の行動、取組を認識して実行するということが、その事が各職場で最も重要であると痛感している。当局に職場実態を踏まえた要求を1つでも2つでも提出・交渉し、毎月1回でも職場集会を開き、交渉状況を組合員に共有すること、組合員同士交流を図るなど取組んでほしい。④2023春闘において、全職場

九州地本

中央委員発言要旨



加藤 吉征委員

(1) 空席ポストについては、フルタイム再任用の活用が図られているものの、年々拡大して

いる状況にある。3Gの空席が多いということは変わらないが、一方で、5Gの空席も増えており、新たなポストに職員を配置しても後任が配置できない状況が増えている。今後、定年引上げの役職定年で、緩和される部分もあるかもしれないが、現状では上位級の空席増加が目立つてくるといった状況になってくる。今年度森林官の級下げもあったが、欠員の状況で級下げが行われるということで、今後

5級の切り下げも増えてくるのではと懸念している。現在、昇格基準の見直しに向けた取組を地本としても進めているが、改めて本部の取組強化を求めたい。

(2) 債務返済については、2023年度から第3分期に入っている債務返済額は279億円となっているが、年平均返済額は届いていないため、今後、これまで以上に単年度の債務返済額が増加していく状況にある。各分会からは、増加する事業量、業務量に対し現状の要員体制、実行体制では困難なことや、返済の見通しに対する意見が出されている。今後の取組としては、

事業量の実行に係る予算確保、組織・定員要求などがあると思うが、一方で債務返済の見直しということも必要ではないか。

一般会計移行の際に、自己収入分で返済していくとした経過は理解しているが、現実として困難な局面を迎えていることから債務返済の見直しや、見直しに向けた本部の見解を求める。

(3) 再任用については、離島宿舎の無償化、赴任期間等、地本としても取組んでいるが改善には至っていないため、今後、組合員も継続したいと思っている。加えて、分会から要求が出ていることとして、短時間勤務職員の公務員宿舎への入居を認

めてほしいという意見。地本としては、組合員からの切実な要求であり、現在、取組を進めている。

本部段階における取組の検討を求める。

(4) 人材情報統合システムの関係について、この間大きな不具合等の報告はないが、改修に向けた意見や、習熟期間、研修等に対する意見が出されている。地本としては、職場において混乱しない対応を求めているが、今後、既存システム改修や新システムが導入される際には、組合員の意見を踏まえ、本部段階の取組強化を求める。

2月24日、東京都・林野会館で第19回林野労組中央委員会が開催され、各地本、育種労組の中央委員・傍聴など24名（九州からは執行部6名出席）が出席しました。
委員会は、議長団に梶原中央委員（四国地本）、前川中央委員（九州）を選出し議事が進行されました。

で要求書を提出すること、短くてもいいので、全職場で交渉を行ってほしい。今後においても本部、地本、分会がしっかり連携を図り、一体となった取組を進めたい。本委員会の積極的な議論と共有を図り、今後の取組の意思統一が図られることをお願いする。」とあいさつ。

その後、執行部から①「2022年度闘いの中間経過、総括及び2023春季生活闘争方針（案）」、②「2022年度中間決算及び2023年度暫定予算（案）」、③「規約・規程改正（案）」、別添議案「第26回参議院議員選挙闘争総括（案）」別添議案「今後の組織運営と財政の健全化に向けた対応（案）」などが提案され、質疑討論に入りました。

質疑討論では、「定員削減に係わる取組」、「空席ポスト解消」、「組織定員」、「業務運営課題」、「現場管理機能の確保」、「林道の維持・修繕予算確保」、「樹木採取権に係わる取組」、「級の切り下げ、役減」、「大震災後の対応」、「人材情報統合システム」、「Jクレジットにおける債務返済」、「来年度事業予定」、「組織態勢の確立」など多くの意見が出されました。

最後に、全地本の諸課題等の改善に向け闘うことを確認し、中村中央本部執行委員長の力強い団結がんばろうで委員会を終了しました。



力強く団結がんばろう



発行所
熊本市西区京町本丁2の7
全国林野関連労働組合
九州地方本部
(電) 096-354-1150
発行者 歌野国光
発行日 10日
定価 1部20円
組合員の購読料は
組合費の中に含む

緑を育て、守る、 林野労組

当面の行動

- 3月3日 第17回地本委員会（熊本市）
- 3月4日 林野労組青年春闘学習交流集会（東京都）
- 3月9日 林野庁共済組合運営委員会
- 3月10日 国公連合九州人事院交渉（福岡市）
- 3月14日 執行委員会
- 3月24日 第4回地本役員推薦委員会（熊本市）

匠の腕

「三味線チョッパー」

（撮影者 塩澤 翔：熊本分会）



「匠の一言」
昨年の山都町で行われた八朔祭の大造り物です。くまモンからチョッパーに進化していました。



3月は卒業式があり、学生にとっては別れと新しい生活が始まる時期である。

社会人にとっても出会いがあり、別れがある。一期一会の大切さをあらためて感じさせる時期でもある。人から言われた言葉であるが「思い上がらず人生簡単にはいかないが、これがダメなら次の方法、自分にあつた事をさがしていく。毎日一歩ずつ後悔しないようにやれることやって生きていくしかない。送り出すときにみんなも自分も笑顔だったらそれでいいじゃないか。」と言われた事がある。日々を過ごす中で朝は必ず来る。いつ頃からか定かではないが朝日を見ると落ち着いてくるようになった。朝日を浴びることで、体内時計をリセットする効果があると言う。心を落ち着けながら一日を振り返り、時間を活かせるよう、改めて出会いに感謝し、支え合う大切さを感じ、日々を過ごしたい。

（チャン）

生活・職場の不安や思いを全体で共有 実態改善に向けて当局へ要求

「2022春闘学習交流集会」

平生通信員・地本青女委

2月12日から13日にかけて「2022春闘学習交流集会」を開催し、各分会から代表者と傍聴者合わせて32名の仲間が熊本市に集結しました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により2年ぶりの集合形式での開催となりました。

冒頭、平生青年女性委員長から「各分会で討論し積み上げてきた実態や要望を共有し、国有



分散会で実態を共有



2年ぶりに全体で臨んだ会見

林野事業の健全化や労働条件の改善に向けて、本集会が有意義なものとなるよう活発な議論を要請する」と挨拶がありました。続いて、甲斐地本執行委員長より「労働組合が継続して声を挙げていくことが大切なので『やらないための議論はしない』をテーマに、引き続き青年女性らしさを武器に頑張ってもらいたい」と激励の挨拶を受けました。

また、中央青年女性委員会より田中委員長が来賓として参加され、中央青年女性委員会の活動報告と東北地本の取り組みを交えた挨拶を受けました。その後、分散会を行い、「生活実態」「職場実態」「将来展望」の項目毎に、各分会からの実態の積み上げと発言内容の確認を行いました。

全体討論では分散会でまとめた要求内容の一つ一つ討論・共有しながら青年女性の要求として確認しました。その中で出された内容としては、「賃金のベースアップ」「諸手当の支給要件の緩和・拡充」「看護休暇の対象年齢の拡大・日数の増加」「要員要求」「内示の早期化」や、継続して要望している項目に加えて「宿舍の配



発言する2022年度新採の2人
(左)熊本南部 原田さん (右)佐賀 寺本さん

と題し講演されました。徳永氏は、①政治がルールを決めている、②労働組合と政治活動、③「公務員は選挙ができない」というデマを信じない、争からである。②労働組合と政治活動については、労働運動と政治活動は表裏一体、組織内・政策協力議員がポテンシャルである。③公務員の選挙ができないというデマについては、公職選挙法と地方公務員法に記載されていることを十分理解すれば選挙活動が制限されているわけではない。適法を十分理解して



九州青年女性委員会一体となって



「宮崎の愛されキャラ男」

山口 聖さん（宮崎分会）



セイウイッシュ!!

今回、宮崎分会からご紹介させていたたくのは、山口聖（セイ）君です。宮城県出身の彼は、仙台育英高校から岩手大学を経て平成30年に屋久島署に新規採用となり令和3年4月に当署の夏木森林事務所へ主事として配属されました。

プレステラは購入当時は寝食を忘れて没頭するほどハマっています。（最近はそのままではないとのこと…本人談）仕事面では、主に事務取扱になっている田代ケ八重森林事務所の業務を任せていますが、森林官さながらの仕事ぶりです。署から信頼も厚く、ドローンの操作にも長けており、昨年の台風後の被害箇所調査等には本人も飛び回っていました。

「朝歩いて出勤できるから」と須木の官舎に一人で住み（夜には裏にある山の神様の方から変な音がするとかしなとか）土日に小林市内に買い出しに出かけ、すき家でチーズ牛丼（特盛り）をかって食らいサブスクでスポーツ観戦を満喫してひとり須木ライフを堪能しているセイ君です。

最後に、この寄稿のため「悩み事はないの？」と訪ねると「悩み事うーん？」とのこと。特に悩みもなさそうなので彼に会ったら気軽に声をかけてください。

（川野通信員・宮崎分会）

「石原通信員・地本青女

令和5年2月3日に連合が主催する「第26期女性リーダー養成講座」がオンライン形式で開催されました。当日は140名程度が参加し、九州から石原（女性常任員）が参加しました。

講義①は、昨年12月に行われた女性集会での講義をさらに深掘りし、女性が社会でより活躍して行くための課題等を学びました。

講義②は、「心理的安全性」を一つのキーワードとし、働きやすい職場を作るにはどうしたらいいかを学びました。

冒頭、鹿兒島県公務労協光永議長は、「今春には統一地方自治体選挙が行われる。私たち公務・公共サービスに従事する労働組合は、賃金をはじめとする労働条件について、人勧グループの交渉から地方公務員への交渉となる。2022年については引き上げとなったが、今後は

動向が注視される。私たちの要求と政策実現を理解している議員の確保が必要となってくる。是非とも、構成組織での政治・選挙闘争の意義などについて理解を深めてもらい、今統一自治体選挙勝利に向け取り組みをお願いしたい。」と挨拶。

組織の力で今統一自治体選挙勝利を！

「鹿兒島県公務労協政治学習会」

3つの課題について、問題提起がありました。政治ルールについては、「①政治の善悪はあるが無関心では

いというデマについては、公職選挙法と地方公務員法に記載されていることを十分理解すれば選挙活動が制限されているわけではない。適法を十分理解して

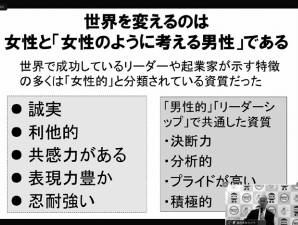
について意思統一は図ってもらいたい。あわせて、選挙活動は、公示前、公示後を問わず全てがボランティアであることを是非とも意思統一をお願いしたい。」



約130名が参加し開催された学習会

女性が社会でより活躍していくために

第26期女性リーダー養成講座



オンラインでの学習

世界で成功しているリーダーや起業家が示す特徴の多くは「女性的」と分類されている資質だった。世界で成功しているリーダーや起業家が示す特徴の多くは「女性的」と分類されている資質だった。世界で成功しているリーダーや起業家が示す特徴の多くは「女性的」と分類されている資質だった。

世界で成功しているリーダーや起業家が示す特徴の多くは「女性的」と分類されている資質だった。世界で成功しているリーダーや起業家が示す特徴の多くは「女性的」と分類されている資質だった。世界で成功しているリーダーや起業家が示す特徴の多くは「女性的」と分類されている資質だった。